JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	沿岸域の利用における二重構造に関する分析
Author(s)	敷田，麻実
Citation	地域漁業学会第41回大会報告要旨集：26-27
Issue Date	1999-11
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16932
Rights	本著作物は地域漁業学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Regional Fisheries Society. Copyright (C) 1999 地域漁業学会. 敷田麻実，地域漁業学会第41回大会報告要旨集，1999，pp.26-27.
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

2－7　　14：30 － 14：55

沿岸域の利用における二重構造に関する分析

敷田　麻実（金沢工業大学）

1．はじめに

沿岸域は，水深の浅い海とそれに接続する陸域を含んだ海岸線に沿ってのびる空間である。そこは海と陸の環境や生態系が相互に密接に影響しあい，エコトーンとしての独特な環境を形成している。そして水産資源やエネルギー資源はじめ，豊かな資源や環境を沿岸域は提供している。

沿岸域の空間や存在する資源・環境は，さまざまな利用者が同時に多元的に利用している。そのために利用者間の調整システムが不可欠である。しかし，沿岸域のそれぞれの利用は独立性が高く，空間や資源をめぐる利用者間の対立を引き起こしてきた。その原因は，沿岸域の利用や環境に関して統一的な管理システムがなかったからである。このようなシステムの必要性は認識され始めているが，その実現のためには現在の沿岸域利用の分析が重要である。

そこで，この報告では今後の総合的沿岸域管理システムに関する示唆を目的として，国内の沿岸域の利用を分析し，沿岸域利用の構造的な特性を明らかにしようとした。

2．沿岸域の利用に関する二重構造

沿岸域の利用者は多岐にわたり，またその利用形態もさまざまである。このような複雑な利用は多元的利用または多面的利用と称される。この状態は，沿岸域という一つの空間を，目的や形態が異なる利用者が同時に利用する状態と考えることができる。

こうした利用はそれぞれ利用者ごとに分類されてきた。しかし利用形態に注目すると利用特性が無視される。また利用者同士の関係をマトリクスで表す手法では，個々の利用者同士，環境と利用の相互関係は表せるが，2 要素の対立という視点からは，個別解決以上の解は見えてこない。そこで，本研究では，利用の質の差に注目し，3 つの分類視点から利用者の分類を行った。それは，産業的利用と非産業的利用，地域住民と非地域住民，特定少数数と不特定多数である。

まず，最近急激に拡大している海洋性レクリエーションやレジャーは，基本的に個々の利用者が，営利を追求することなく沿岸域を利用している。この点で，沿岸域の利用は，漁業者のような産業的な利用と非産業的利用に分類できると考えられる。

次に，現代の沿岸域利用で顕著な傾向は，地元の生活圏以外の地域から利用者が移動してくることである。遊漁はもちろんのこと，最近は海水浴ででさえ地域外から自家用車や交通機関を利用して移動してくる。この点で，地元地域の生活圏とそれ以外の地域から来る非地域住民に分けることができる。

3 番目の視点は，利用者の把握である。水産業や工業用地としての利用は，利用者が明確に把握できる特定少数である。それは，それぞれの利用が法律や制度に基づき許可や認可で個別に認識されているからである。しかし海洋性レクリエーションのような利用は，法律・制度による許認可を要せず，また利用者が多数で特定できない不特定多数による利用である。このように，特定少数と不特定多数の利用としての分類が可能である。

以上の３つの視点から利用者を分類することで，沿岸域の利用の構造が明らかになると考えられる。また，この３視点は相互に関係している。たとえば，海洋性レクリエーションは，非産業的利用であると同時に，地域外からの利用者が多い不特定多数の利用である（表１）。

しかし利用だけで沿岸域管理を検討することは，結果的に環境や資源に対する配慮を欠く。漁業と遊漁の調整など，ともすれば利用者間の調整に終始し，双方が利用する対象資源の存在が無視されている例は多い。

そこで，この利用の視点に環境や資源の存在を加える必要がある。その関係を表したのが，図１である。さらに先にあげたほかの２つの視点でも，環境や資源要素を組み入れることができる。

表１　沿岸域の利用特性による利用の分類

産業的利用	←→	非産業的利用
地域住民	←→	非地域住民
特定少数	←→	不特定多数

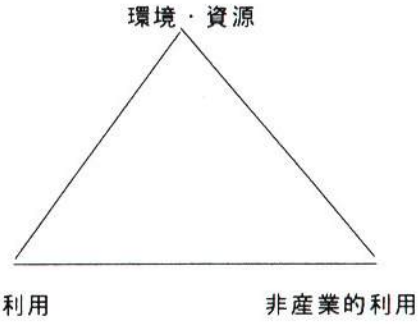

図１　沿岸域利用をめぐる産業的利用と非産業的利用および環境（資源）の関係

3．結論

以上のように本報告では，沿岸域利用の二重構造を取り上げ利用者を分類した。その結果，個々の利用形態を越えた利用の特性が明らかにできると考えられる。また，環境との関係を前提とした沿岸域利用の三角形による構造モデルを本報告では提案し，沿岸域の環境と利用者間対立・調整の関係を表現した。